

I 学校の概要

学習習慣形成モデル校事業

さぬき立寒川小学校

◆児童生徒数及び教員数

○児童生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
2学級 40名	2学級 40名	2学級 43名	2学級 39名	2学級 51名	2学級 58名	2学級 13名	14学級 284名

○教員数 26名

◆学校の特色

本校は、旧神前小学校と旧石田小学校の統合によって本年度4月に開校し、新しいスタートを切った。めざす児童像として、「さん 賛辞と感謝を伝える子 が がまん強くきたえる子 わ わかるまで学ぶ子」を掲げ、子どもも教師も新しい環境の中で、仲間とともにめあてをもってよりよい自分や学級、学校を創っていかうとする雰囲気が高まっている。それぞれの学校でこれまで培ってきた子どもたちの学びに向かう力をさらに高めたり発揮したりできるようにするため、「教師と子ども」「子どもと子ども」「教師と教師」「学校と家庭・地域」がつながり、信頼関係を結びながら教育活動を展開していくことをめざしている。子どもも保護者も、そして教師も少なからずもっている新しい環境への戸惑いや不安を解決するために、共に試行錯誤していく過程を大切にしながら「初年度寒川小スタイルづくり」に取り組んでいる。

II 研究主題等

研究主題

自ら学び続ける学習習慣を身に付けた子どもの育成 ～「つながり」を意識した授業づくり・学習環境づくりを通して～

◆研究主題設定の理由

これまで、統合前のそれぞれの学校において、基礎的な言語能力を高め、論理的思考力を伸ばすとともに、学校や家庭における望ましい学習習慣の形成を目指して実践してきた。その結果、学習規律の定着状況が向上し、挙手発表が活発になり、家庭学習に進んで取り組む児童も少しずつ増加してきた。

しかし、家庭学習まで子どもの学習意欲が継続することが難しく、学びのつながりや広がりといった点には課題がみられる。また、学習状況調査の結果を見てみると、近年伸び悩んでおり、県平均を下回る教科や学年が多くなってきている。児童質問紙の学習習慣や学習規律に関する項目でも、肯定的な回答をした子どもが県平均より低いものが多い。また、睡眠時間や家庭学習の時間が短く、生活習慣の形成にも課題がある子どもが多くなってきている。

そこで、子どもの学ぶ意欲を高め、課題意識がつながる授業づくりと学習集団づくりの研究をすすめるとともに、学習習慣の形成につながるための家庭や地域との連携の在り方を探ることにした。さらに学校での学びを家庭や地域につなげる工夫や家庭・地域で学んだことを学校の授業につなげる工夫を行い、双方向のやりとりの中で児童の確かな学力を育てていきたい。

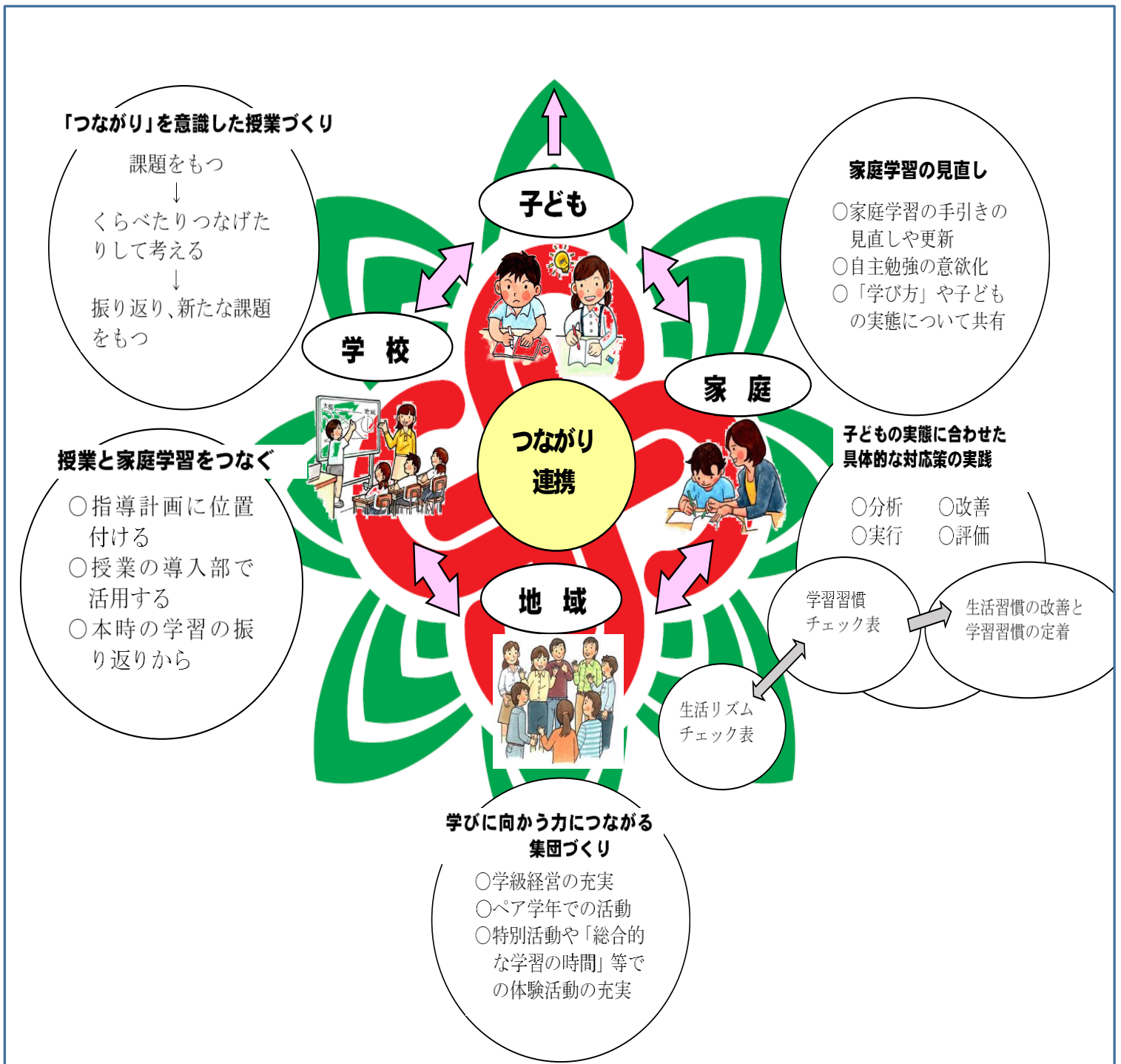
◆研究内容及び方法

研究仮説 1

授業や家庭学習において、「課題の見通しをもつ」「考え、やってみる」「振り返り、次への見通しや課題をもつ」場を設定したり、学ぶ喜びを実感できる授業改善を試みたりすることで、子どもの主体的に学び続けようとする意識が育つだろう。

研究仮説 2

個や集団の実態把握をもとに、家庭や地域と連携しながら、よりよい生活習慣の形成や授業と家庭学習をつなぐための方策を工夫することで、子どもの学習習慣により影響が表れるだろう。



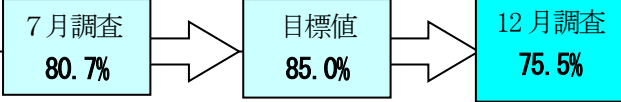
III 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1 (児童アンケート)

授業の内容がどの程度分かりますか。

指標 「①よく分かる+②だいたい分かる」の合計

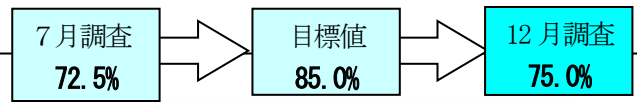


指標の達成に向けた実践

2 (教師アンケート)

基礎基本定着のために、工夫をしていますか

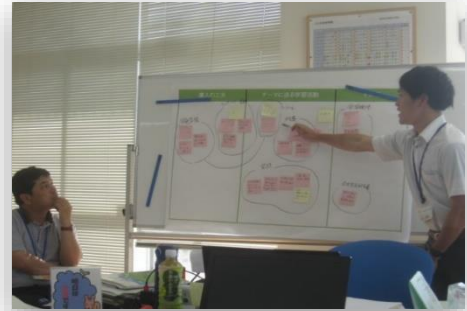
指標 「①よく行っている+②どちらかといえば行っている」の合計



「つながり」を意識した授業づくり

指導案の単元構成表に「子どもの意識の流れ」の欄を設定

次	時	学習内容	子どもの意識の流れ	評価規準(評価方法)
1	1	・学習の計画を立てる。 ・みそ汁を試飲・比較し、 新たな問題を見出す。	○みそ汁のおいしい作り方を 知ろう ○「だし」が入っているかどうか、 「何からだしをとるか」で味や濃さ がちがうんじゃないかな。 ○他にもだしの種類があるの かな。みそを変えたらどうなる のかな。実際に試してみよう。	【関】みそ汁に関心をもち、 だし、実、みそについて自分の 課題を調べようとしている。 (行動観察・ワークシート)
	2	・だしの取り方、基本のみ そ汁の作り方を学び、調理 実習の計画を立てる。	○基本のみそ汁の作り方を 知り、実習の計画を立てよう。 ○どんな手順でつくるのかな。 ○基本のみそ汁の作り方がよく 分かった。実によって入れる タイミングが違ってびっくり したよ。なぜそのタイミングで 入れるのか、理由も分かったよ。	【創】おいしいみそ汁の調理 計画について考えたり、自分 なりに工夫したりしている。 【知・理】みそ汁の作り方 について理解している。 (ワークシート)
	3	・基本のみそ汁を作り、 試食する。実習で分かつ たことや新たに見出した	○だしを上手に取って、基本 のみそ汁をおいしく作る。 ○違いは「だし」だけなのに、 飲み比べる	【創】基本のみそ汁の課題 について自分なりに考えたり 工夫したりしている。(発言・ ワークシート)



教師自身も授業づくりにおいて

課題をもつ⇒考えやってみて⇒振り返り
次への見通しをもてるよう、互いにアド
バイスし合いながら、授業力を身に付け
ることを目指した。

授業実践例 I 「課題をもつ段階」での支援の工夫

3年社会「市のようす」

資料の精選・提示で、子どもと共に単元を貫く課題をつくる

わたしたちのさぬき市って
どんなところ？

さぬき市って
どこにあるの？
どんな
ところ？

子どもの意識を想定

「学びの地図」を教師と子どもでつくる

社会科の学習のすすめ方
～学習問題と計画をつくる～

- 単元の課題を共有
- ゴールの明確化

学習問題

調べ、まとめたものを
番組に送って

毎時間の学びを掲示

課題意識の継続

活発に意見交換する
姿につながった

どの子ども課題に向
けて走り出せた。



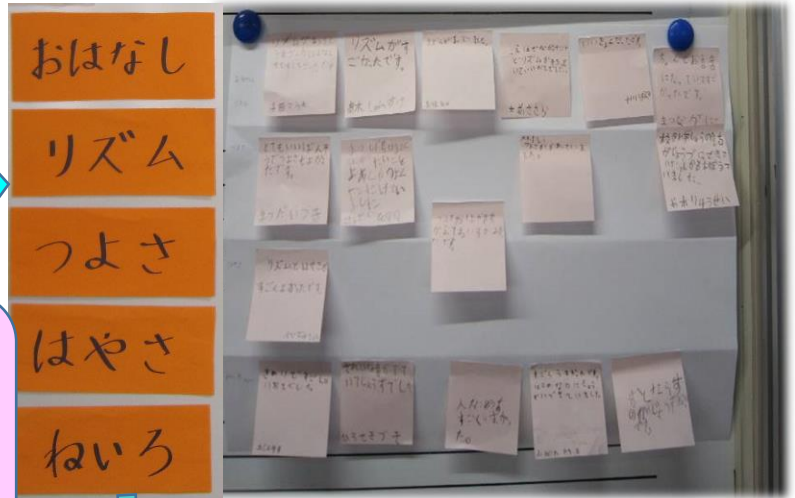
授業実践例 II 「くらべたりつなげたりして考える段階」での支援の工夫

2年音楽 「いろいろな音を楽しもう」

交流場面での観点を明確にする



ペアでつくった「楽器の会話」の演奏を聴き合い、気付いたことを発表し合う場面で、音楽を特徴付けている要素に迫れるようにするためにあらかじめ「おはなし」「リズム」「つよさ」「はやさ」「ねいろ」という観点を提示した。



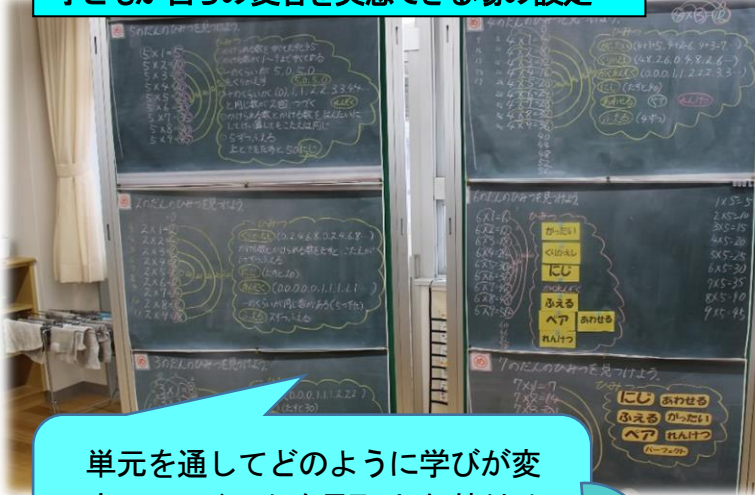
「鈴の音が雨が降っている感じがしました。」「弱く鳴らしているからしょんぼりしている様子が出ていました」等、音楽を特徴づけている要素に着目する児童が増えた。

授業実践例 III 「振り返り、次の課題をもつ段階」での支援の工夫

2年算数 「九九」



子どもが自らの変容を実感できる場の設定



毎時間の「ひみつ発見」

九九の構成→唱え方→適用題という流れに加え、九九の各段の並びから、「ひみつ」を発見して紹介し合う活動を取り入れる。



見つけた「ひみつ」を各自のノートに記録したり、毎時間の写真を掲示したりした。

単元を通してどのように学びが変容していくのかを見取り、価値付けをしながら授業を展開した。

これまでの活動を振り返ることができ九九の各段の中に、自分たちの発見が生かされていることを確認できた。

さらに「ひみつ見付け」への意欲が高まり、新たな「ひみつ発見」につながった。



3 (児童アンケート)

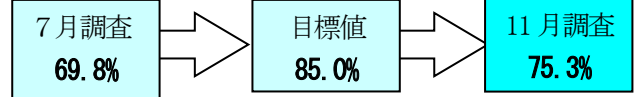
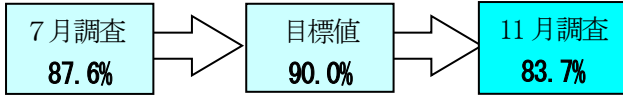
普段の授業で、その時間のめあてをはっきりとめて取り組んでいますか。

指標「①している+②どちらかといえばしている」の合計

4 (教師アンケート)

家庭学習とつながるような課題設定やふりかえり等の授業の工夫をしていますか。

指標「①よく行っている+②どちらかといえば行っている」の合計



授業と家庭学習をつなぐ

児童の学習の様子、県版テスト等の結果から実態を分析し、今、どんなことをどのように学ばせることが必要かを考え、単元の指導計画に家庭学習を位置付けた。

第5学年1組 国語科学習指導案 授業者 T1 多田 ちとせ T2 西上 悌也
○ 家庭学習で課題を持って読書したことを授業につなげ、物語の構成の効果を対話的に考えることによって、自ら学び続けようとする姿勢が育つと考える。
1 単元名 不思議な世界へ出かけよう
第1年1組 生活科学習指導案 授業者 亀井 久美
○ タイムスケジュールを用いて自分や家族の生活を見直すことによって、自分も家族の一員として自分のできることを実践するという目的意識をもつことができるだろう。

授業実践例 IV 家庭学習が有効に働く単元構成

5年国語 「不思議な世界へ出かけよう」

家庭学習で課題を持って読書

自分たちが創作する物語をより豊かなものにする

日付	書名	感想	ページ数	単位
9/13	景法師	子どもたちがつづいた物語が面白かった	18	18
9/13	ダンス	ダンスが面白かった	20	38
9/13	かばの三太	三太がかばの三太に会ったこと	26	64
9/29	空飛ぶお宝	王子様が木馬にのってお宝をさがした	24	88
9/13	お宝	お宝が面白かった	63	150
9/13	お宝	お宝が面白かった	79	228
9/30	お宝	お宝が面白かった	217	440
9/30	お宝	お宝が面白かった	27	416
9/30	お宝	お宝が面白かった	74	488
9/11	王子様の靴	王子様の靴は面白かった	13	500
9/13	お宝	お宝が面白かった	14	514



読書を生かして、物語の構成を対話的に考える

木のの中の物語

<ストーリーマップ 物語のながれ>

①実話 (中心人物のたらないこと) 明確でない(の空のまげは) 不明確な(お宝) 不明確な(お宝)

②結核 (困ったこと) 学校で習ったことあり 学校で習ったことあり 学校で習ったことあり

③結核 (たらないことがどうなったか) 王子様の靴は 王子様の靴は 王子様の靴は

学んだことを授業につないで物語を制作したことで、発想や表現がさらに豊かなものとなった。

完成した物語を図書室に展示



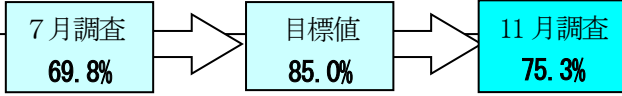
ペア学年に読み聞かせ



5 (児童アンケート)

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

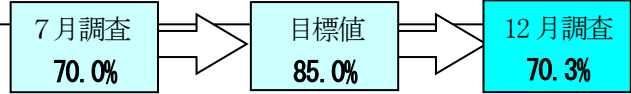
指標「①している+②どちらかといえばしている」の合計



6 (保護者アンケート)

子どもは、自主的な家庭学習(宿題・自主勉強)に取り組んでいますか?

指標「①している+②どちらかといえばしている」の合計



学習習慣チェック表

学習習慣チェック週間(月に1回 一週間実施)

・特に下校後から寝るまでの時間をどのように使ったか一目で分かる。
 ・「時間」を量で感じることができる。
 ↓
 児童自らが時間の使い方を見直し、改善しようとする姿を期待

家庭での時間をどのように使ったかを記録
 勉強・・・青
 読書・・・黒
 テレビ・ゲーム
 ユーチューブ等
 ……赤

実態に合わせ、毎月内容を更新

(例)： 個人の「めあて」の立て方を指導
 具体的な学習時間や内容を設定

ノーテレビ・ノーゲームデーの設定
 振り返り、改善策を考える場の設定 等

授業実践例 V 「学習習慣チェック表」を活用した授業

1年生活科 「自分でできるよ」

チェック表をもとに、自分の生活を見つめ直す。

授業後、決めた仕事を学習習慣チェック期間に取り組んで記録



家の人は青
 自分は赤

家庭の協力もあり、
 10日間の仕事に
 挑戦できた。

勉強以外にもいろいろなことをしているな。家の人がしていることがたくさんあるな。

◆特徴的な取組

学ぶ集団としての質を高めるために

特別活動の充実

「寒川小体カアップ作戦」
～ミニ運動会を開こう～

児童会活動(代表委員会メンバー)で企画・運営

学級から児童会(代表委員会)へ

全校生で楽しむ

振り返り改善策を考える

課題をもつ⇒考えやってみる⇒振り返りのサイクルを繰り返して活動することで、
自分たちで創りあげる喜びを体験できた。

基礎的な学力の向上をめざした諸活動

読書活動の充実

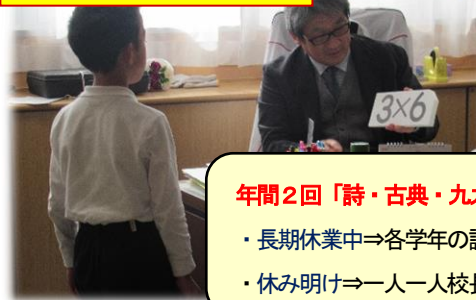


校内読書週間(年間2回)

地域のボランティアによる読み聞かせ

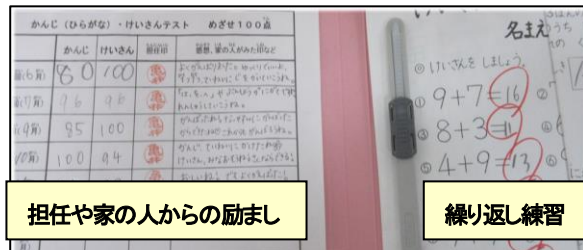
授業とつなぐ

詩・古典・九九の暗唱



年間2回「詩・古典・九九の暗唱週間」

- ・長期休業中⇒各学年の課題の暗唱練習
- ・休み明け⇒一人一人校長先生に聞いてもらう



担任や家の人からの励まし

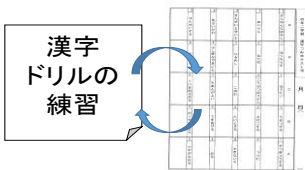
繰り返し練習

漢字・計算テスト

家庭学習充実への手立て

毎日の積み重ねを大切に宿題や自主勉強(ノート)の工夫

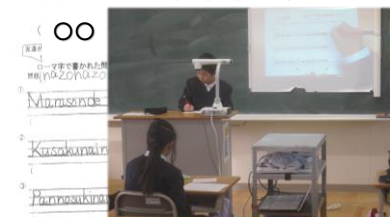
☆ 漢字ドリルと積み木テスト



漢字
ドリルの
練習

宿題で練習し、授業始めにテスト
→努力で点数アップ
→宿題への意欲化が見られた。

☆ ローマ字〇〇プリント



〇〇は児童の名前。児童が宿題の問題を作る。翌日、子ども先生になり答え合わせをする。→間違いないよう、真剣に取り組む姿が見られた。

☆ グループ自主勉強



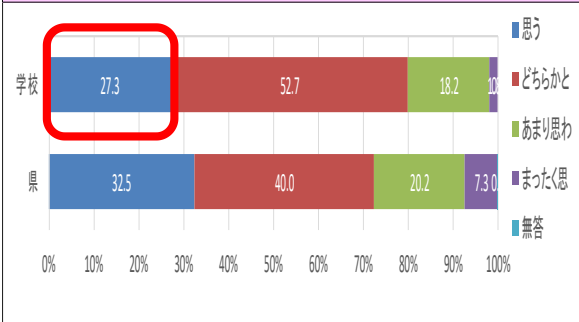
グループで一冊の自主勉強ノートを持ち、担当を回す。
→友だちから勉強の方法を学ぶことができる。

IV 研究の成果と課題

仮説1について

- 単元を通して、児童の意識の流れやつながりを想定しての授業づくりをすることで、児童が自ら学びに向かえるよう意識して指導することができた。
- 人間関係づくりを重視した学習環境づくりをすることで、児童の集団や個の実態把握ができ、支援の手立てを更新し続けることができた。
- 授業づくりの工夫を整理し、特に「振り返り次の課題をもつ段階」について、次時や他教科、生活、確かな学びにつながるための授業改善が必要である。

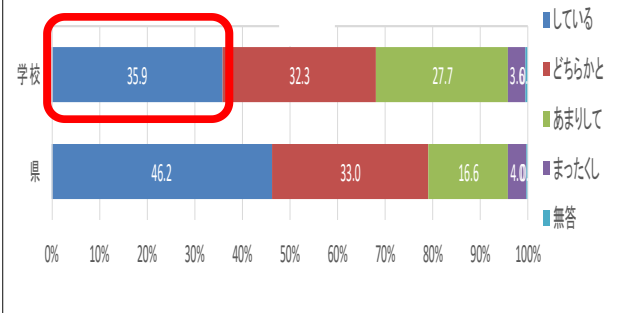
質問紙調査:「授業は楽しいと思いますか」



学習への確かな理解や学習意欲の継続という面では、まだまだ課題が残る。

質問紙調査

「分からないところは先生や友だちに質問して解決していますか」



仮説2について

- 授業と家庭学習をつなぐ取組を増やしたり、家庭学習の取組を紹介したりすることで、自主学習の内容が多様になった。
- 多くの保護者の協力が得られ、アンケートから保護者の学習についての悩みや、子どもの家庭学習への取組の様子がよく分かった。
- 学校の取組や個や集団の伸び、課題、効果的な支援等について、継続的に家庭に伝える。
- 保護者の声を生かした家庭との連携の仕方を探る。

- 本を借りてこそ、家でもなかなか読まないの、少しでも読むようにしたい。
- 共働きで夜が遅くなりがち。生活リズムを整えようとしているが難しい。
- 3年生の学習40分と推奨されているが、全く自主勉強もできていないのが現状。もう少し宿題を増やしてはどうか。親が自主学習をできるようにできていないのは分かっているがなかなかうまくいかない。
- 生活時間の使い方、家庭学習、インターネット使用ルール、母は頑張っているが本人は守ってくれない。もう少し努力が必要。
- いろいろ考えていただいてのことだとは思いますが、宿題が多すぎて以前ほど勉強に対してやる気が見られないと思う。

保護者アンケートより

アンケートの記述からは、家庭でもいろいろと努力はしてくださっているものの、困り感も多々あるということがわかる。学校からは、取組について手紙で知らせるとともに、保護者の悩みに寄り添い、家庭教育学級や学校保健委員会で、生活習慣の改善や子どもの励まし方、メディアとの付き合い方等の講演や演習を開催している。「参考になった」「取り入れてみたい」と前向きに捉えてくださる方が多い。反面、それらの会への出席率が低いという実態もある。共に子どもを支援していくというスタンスで、今後も積極的に家庭に働きかけていきたい。

令和2年度（開校2年目）に向けて

今年度の取組への振り返りやアンケート結果等を踏まえ、開校2年目のカリキュラムや現教計画について、話し合いを進めている。取り組む内容、行事の精選や改善について、前向きな意見を出し合っているところである。

